

殺虫殺菌剤

デジタル[®]ミネクト[®]箱粒剤

シアントラニプロール…………… 0.75%
ピロキロン…………… 10.0%

種類名/シアントラニプロール・ピロキロン粒剤
農林水産省登録/第23722号
(シンジェンタ ジャパン登録)
毒性/普通物*
有効年限/5年
包装/1kg×12、3kg×6

特 長

- 新規殺虫成分シアントラニプロールと、いもち病防除に実績のある有効成分ピロキロンを組み合わせた。
- 幅広い主要害虫といもち病に高い効果を示す殺虫殺菌剤です。
- 独自の溶出制御技術をさらに改良。ピロキロンが葉いもちから穂いもちまでカバーします。(ただし、発生状況により、穂いもち防除が必要な場合もあります)

適用病害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミスゾウムシ	育苗箱 〔30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ〕 1箱当り50g	移植10日前 ～移植当日	本剤 1回 シアントラニプロール剤 1回 ピロキロン剤 3回 〔移植時までの処理は1回、 本田では2回〕	育苗箱の上 から均一に 散布する
	イナゴ類 イネツトムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネヒメハモグリバエ ヒメトビウンカ コブノメイガ フタオビコヤガ		移植3日前 ～移植当日		
直播水稻	いもち病 イネミスゾウムシ	高密度に は種する場合は 1kg/10a 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50～100g	は種時	本剤 1回 シアントラニプロール剤 1回 ピロキロン剤 3回 〔は種時までの処理は1回、 本田では2回〕	は種同時施 業機を用い て土中施用 する
稲	いもち病 イネミスゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	移植時	本剤 1回 シアントラニプロール剤 1回 ピロキロン剤 3回 〔直播ではは種時又は 移植時までの処理は 1回、本田では2回〕	側条施用

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。

- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、軽く灌水してから移植してください。
- 葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水してください。
- 移植時側条施用に使用する場合は、専用の移植同時施肥機を用いてください。
- ヒメトビウンカに対しては残効性に注意してください。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬害

- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などの場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 本剤処理により、時に生育初期の葉に先枯れ等の薬害を生じることがありますが、実用上の問題はないことから通常の管理を維持してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行ってください。
- 移植後、少なくとも3～4日間は湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないでください。なお、漏水の多い水田での使用はさけてください。
- 移植後、高温、あるいは低温による生育不良等が予想される場合には、薬害が助長されるおそれがあるので使用をさけてください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用してください。
- 使用後は水管理に注意してください。
- 器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意してください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2024年7月25日現在の登録内容に基づいています。